

第4章

日常生活圏域別地域分析

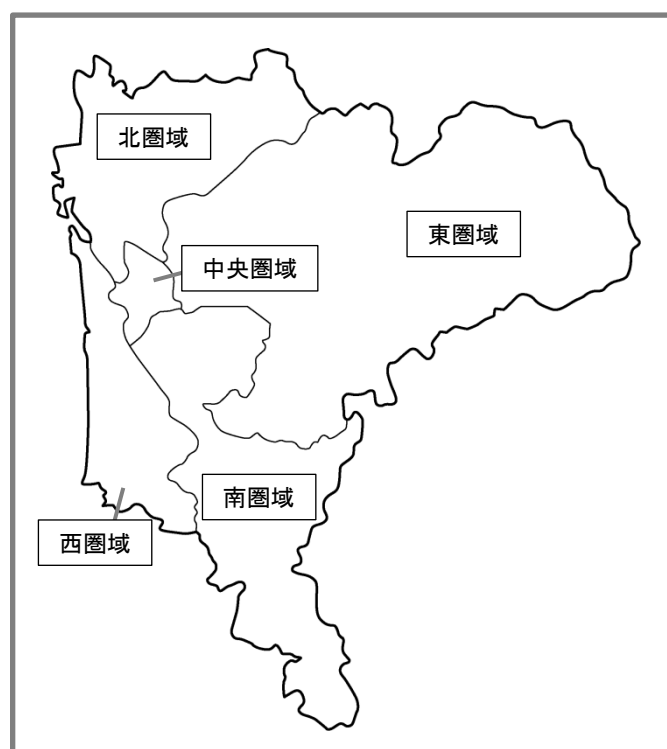
第4章 日常生活圏域別地域分析

第4章は調査結果から5つの日常生活圏域別に市全域と比較しながら、高齢者の健康自立度や生活実態、地域の活動やすけあいの状況など、各圏域の地域特性を分析しました。

日常生活圏域名	高齢者人口 (人)	前期高齢者 (人)	後期高齢者 (人)	後期高齢者 比率(%)	一般高齢者 (人)	認定者 (人)
市全域	90,840	45,562	45,278	49.8	72,411	18,429
中央圏域	20,505	10,076	10,429	50.9	16,067	4,438
東圏域	20,106	9,957	10,149	50.5	16,137	3,969
西圏域	10,680	5,314	5,366	50.2	8,549	2,131
南圏域	15,371	8,019	7,352	47.8	12,373	2,998
北圏域	24,178	12,196	11,982	49.6	19,285	4,893

日常生活圏域名	認定率 (%)	要支援 認定者 (人)	要介護 認定者 (人)	重度認定者	
				要介護3~5 (人)	認定率 (%)
市全域	20.3	4,888	13,541	6,314	7.0
中央圏域	21.6	1,392	3,046	1,314	6.4
東圏域	19.7	960	3,009	1,412	7.0
西圏域	20.0	527	1,604	764	7.2
南圏域	19.5	777	2,221	1,043	6.8
北圏域	20.2	1,232	3,661	1,781	7.4

※上記の数値は平成28年11月21日現在

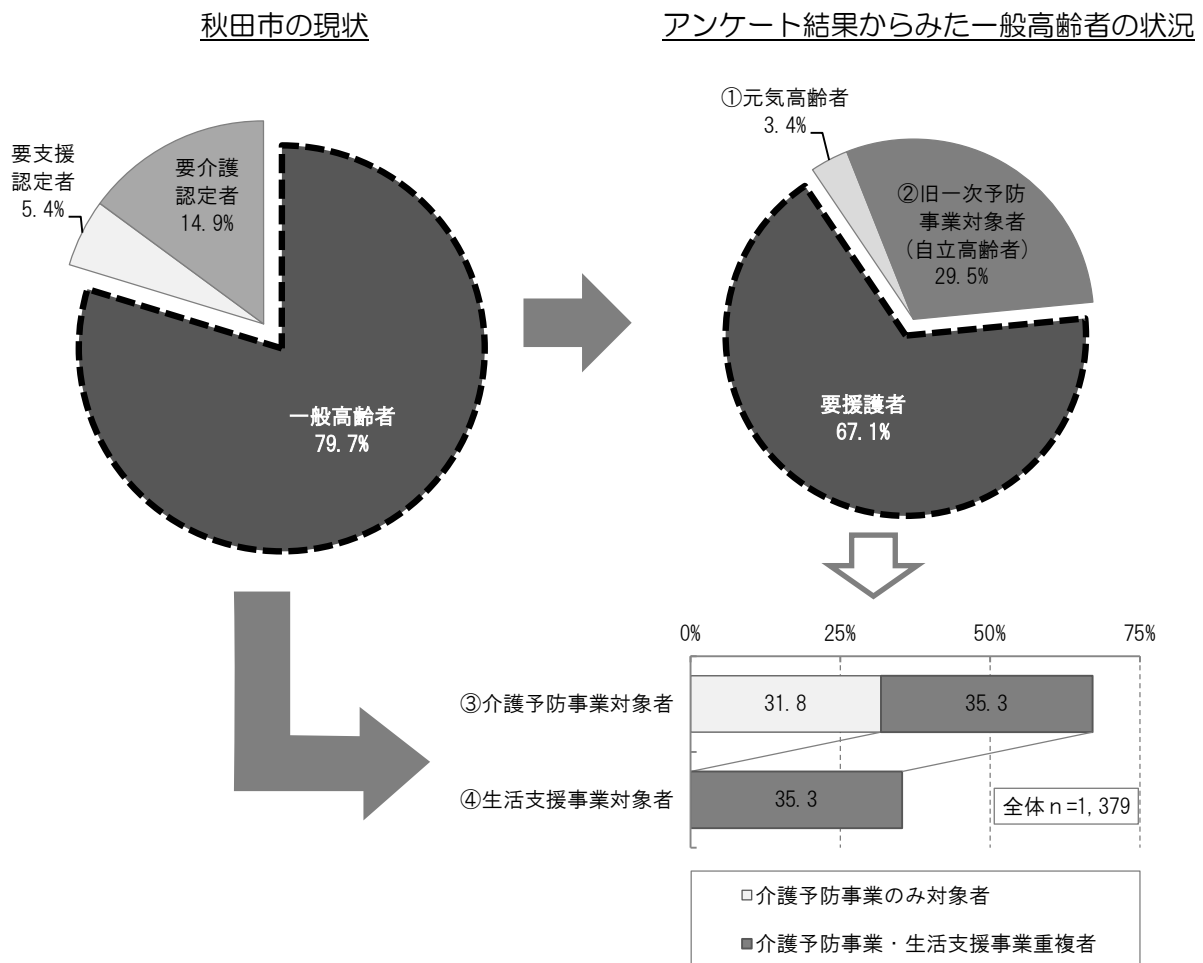


1 “4つの高齢者像”からみた地域分析

本市における平成28年11月21日現在の要支援・要介護認定者数は18,429人（認定率20.3%）となり、認定者を除いた一般高齢者数は72,411人と高齢者人口の8割を占めています。

また、調査結果から高齢者像別に出現率をみると、要援護者は67.1%、旧一次予防事業対象者は29.5%、元気高齢者は3.4%となっています。

図 4.1 高齢者像別出現率



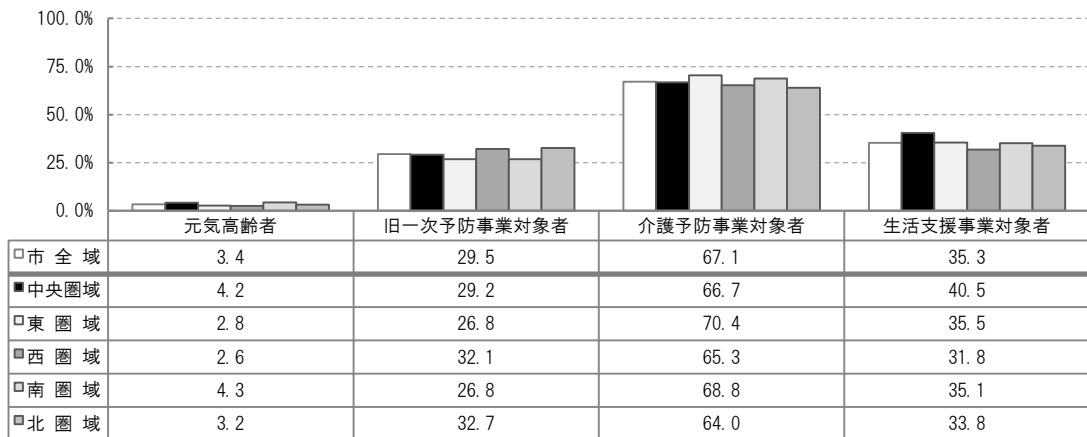
※介護予防事業・生活支援事業の対象者には重複があります。

※「旧一次予防事業対象者」…一般高齢者から元気高齢者や介護予防事業対象者、生活支援事業対象者を除いた高齢者です。

※「高齢者像の判定条件」…129～131ページ

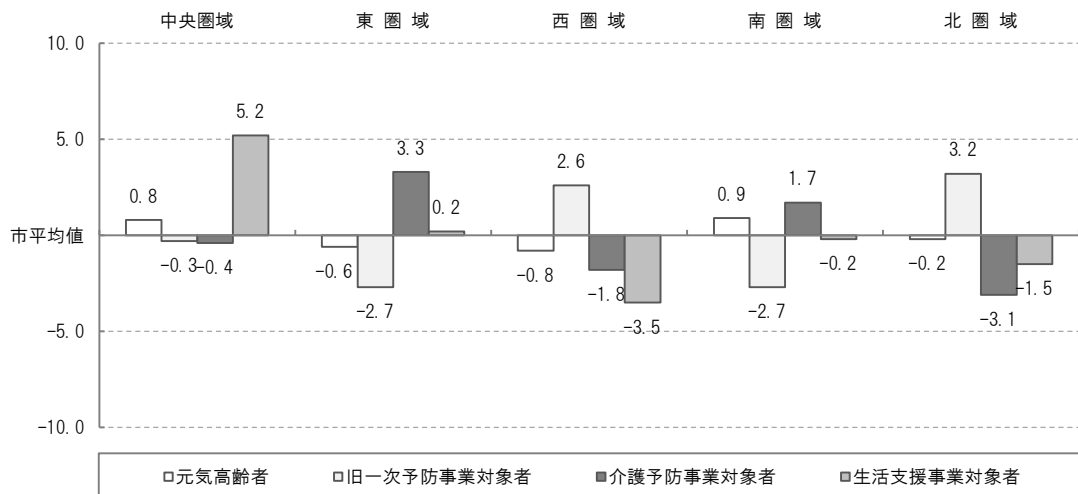
- 一般高齢者において4つの高齢者像別出現率の地域差をみると、元気高齢者では「南」「中央」圏域で高く、その他の圏域で低くなっています。
- 旧一次予防事業対象者では「北」「西」圏域（32.7%・32.1%）が市全域（29.5%）より高くなっています。
- 「中央」圏域では生活支援事業対象者が突出して、市平均値を上回り高くなっています。

図 4.2 4つの高齢者像別出現率



※「旧一次予防事業対象者」…ここでは、一般高齢者全体から元気高齢者や介護予防事業対象者、生活支援事業対象者を除いた高齢者です。

図 4.3 4つの高齢者像別出現率の地域差



※「旧一次予防事業対象者」…ここでは、一般高齢者全体から元気高齢者や介護予防事業対象者、生活支援事業対象者を除いた高齢者です。

2 介護予防・日常生活支援総合事業に関するニーズ

(1) 介護予防事業対象者の出現率と地域差

○介護予防事業対象者の出現率の地域差をみると、一般高齢者では「東」圏域（70.4%）が最も高いものの、いずれの圏域も市平均値と大差はありません。

○一方、要支援者では「南」圏域（100.0%）と「西」圏域（75.0%）の出現率の差が25.0^{ポイント}と大きくなっています。さらに「西」圏域は市平均値も大きく下回る状況です。

図 4.4 介護予防事業対象者出現率

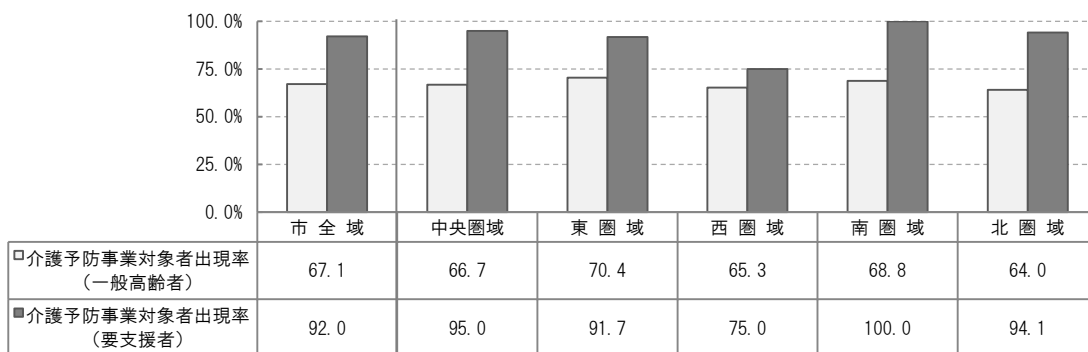
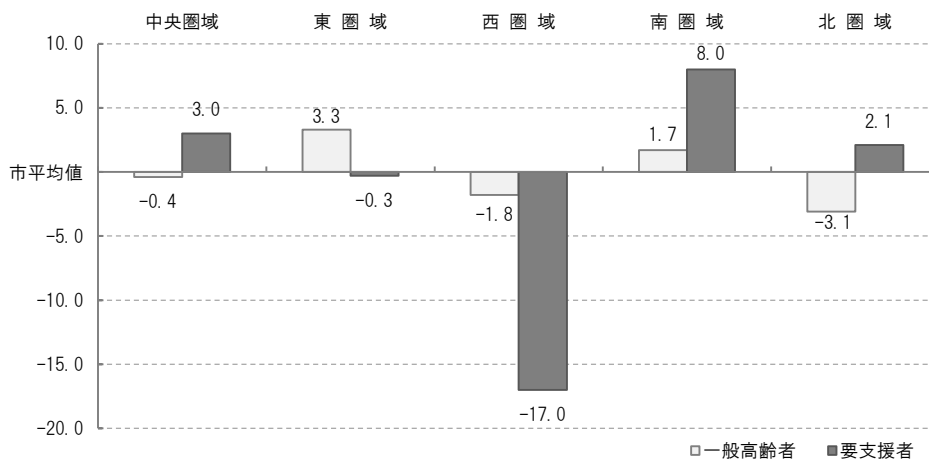


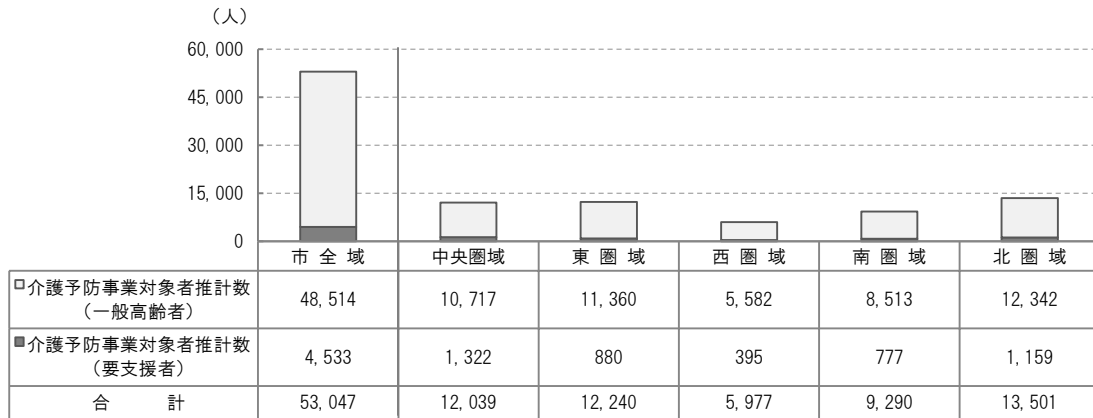
図 4.5 介護予防事業対象者出現率の地域差



○介護予防事業対象者の推計人数をみると、市全域では一般高齢者で約4万8千人、要支援者で約4,5千人になると予測されます。

○圏域別の推計人数をみると、一般高齢者では「北」「東」「中央」圏域の順、要支援者では「中央」「北」「東」圏域の順に多い見込みです。

図 4.6 介護予防事業対象者数（推計）



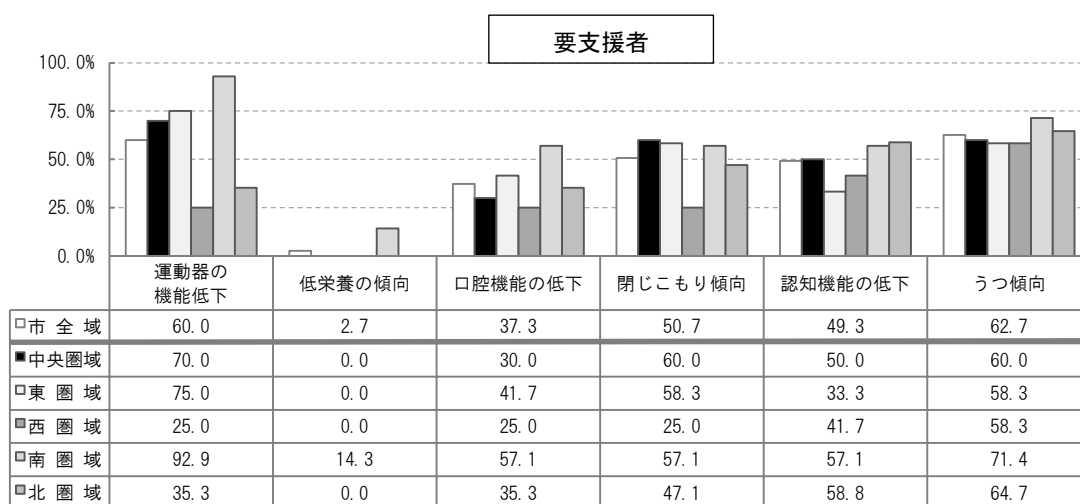
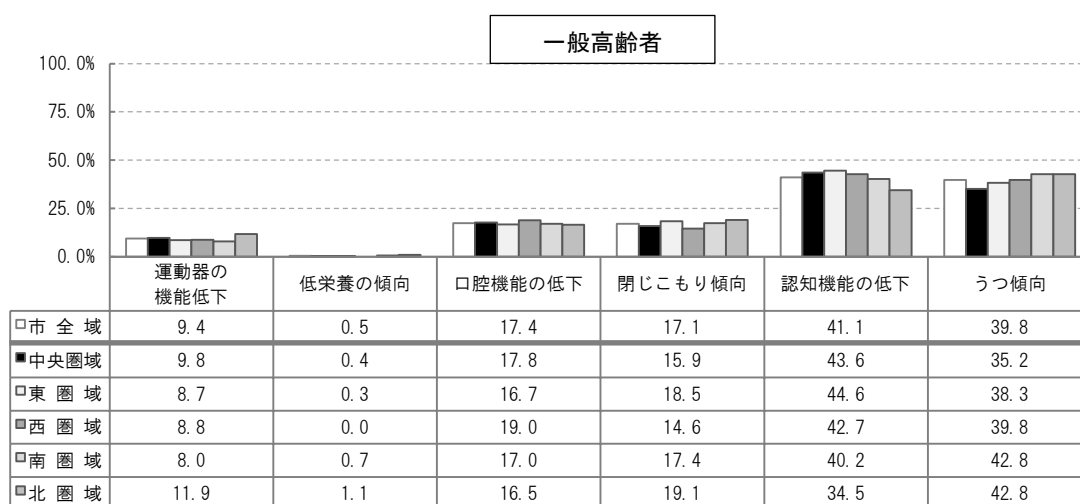
(2) リスクに該当する高齢者数の予測とニーズ算出

○一般高齢者において各リスク該当高齢者の出現率の地域差をみると、市全域では認知機能の低下、うつ傾向、口腔機能の低下、閉じこもり傾向、運動器の機能低下、低栄養の傾向の順に高くなっています。

○一方、要支援者ではうつ傾向、運動器の機能低下、閉じこもり傾向、認知機能の低下、口腔機能の低下、低栄養の傾向の順に高くなっています。

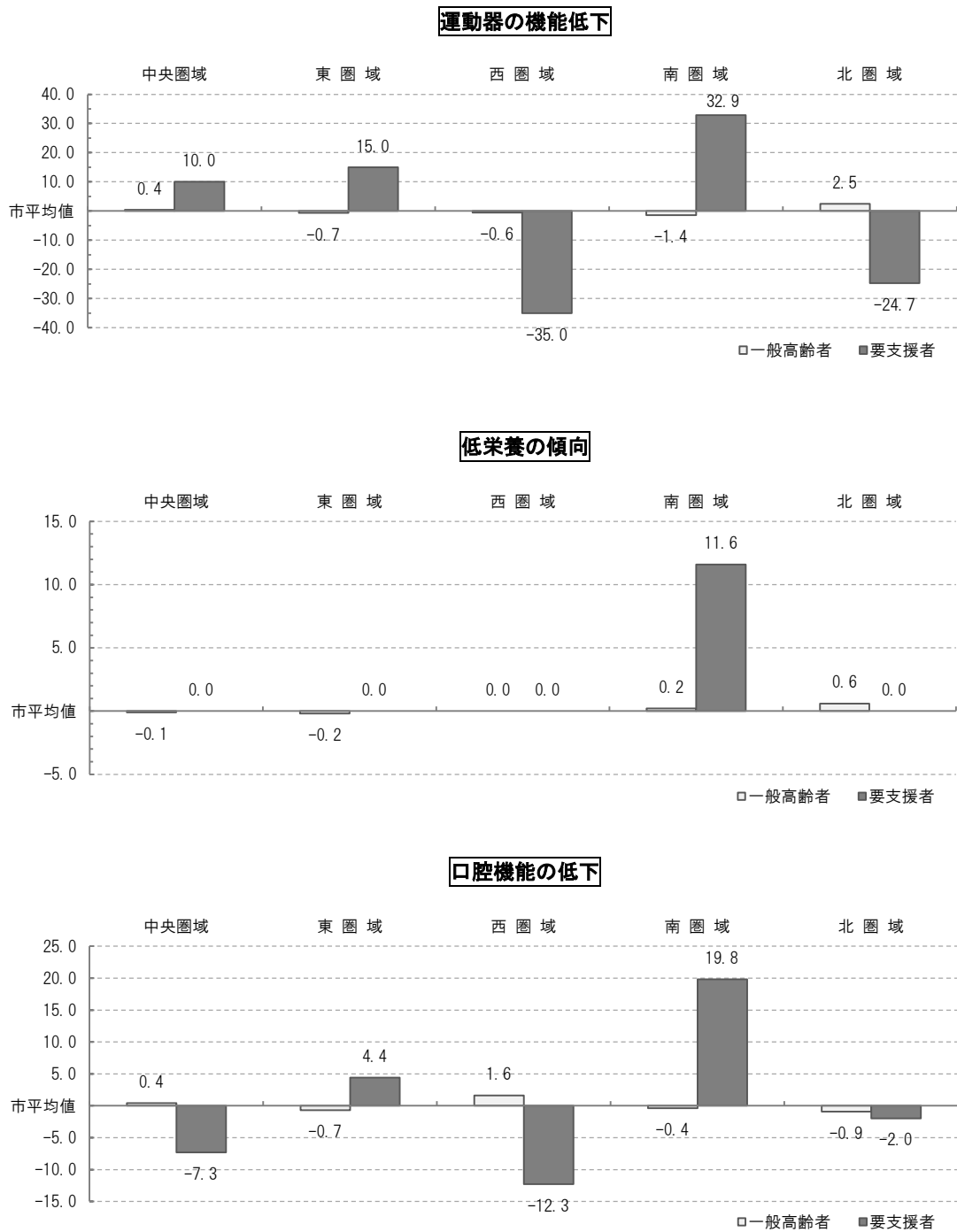
○圏域別にみると、「南」圏域の要支援者では全てのリスクで出現率が市全域を上回り、特に運動器の機能低下は突出し、高くなっています。

図 4.7 リスクに該当する高齢者の出現率



- 出現率の地域差をリスクごとにみると、運動器の機能低下リスクでは要支援者の「南」圏域が高くなっています。
- 低栄養の傾向リスクでは、一般高齢者の「北」「南」圏域が、市平均値をわずかに上回っています。要支援者は、「南」圏域が突出して高くなっています。
- 口腔機能の低下リスクでは、要支援者の「南」圏域が高くなっています。

図 4.8 リスク者出現率の地域差

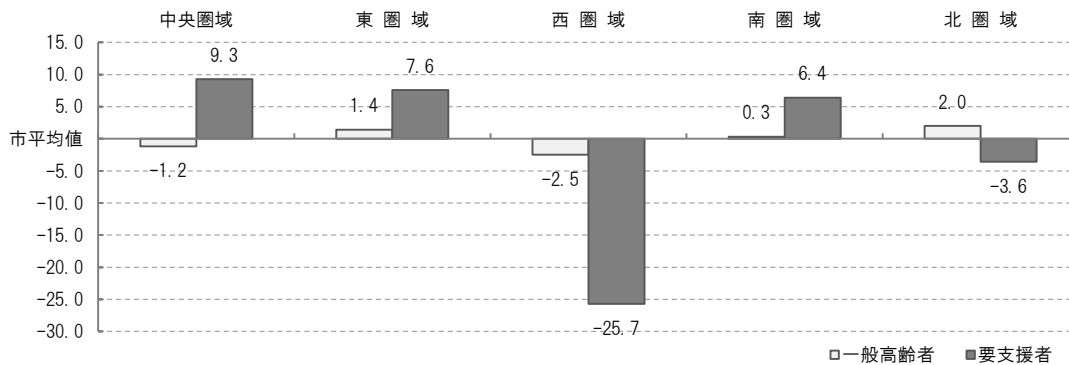


○閉じこもり傾向リスクでは、一般高齢者の「東」「北」圏域が市平均値を上回っています。

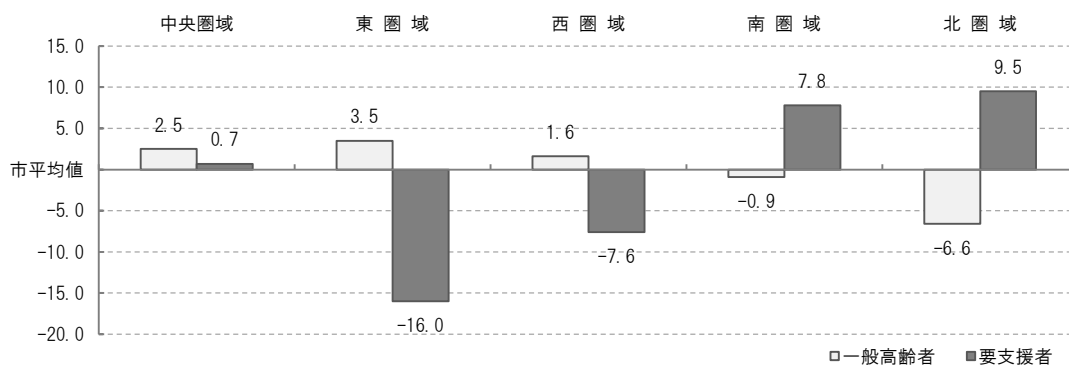
○認知機能の低下リスクでは、一般高齢者の「東」「中央」「西」圏域が、要支援者の「北」「南」圏域が高くなっています。

○うつ傾向リスクでは、要支援者の「南」圏域が突出して高くなっています。

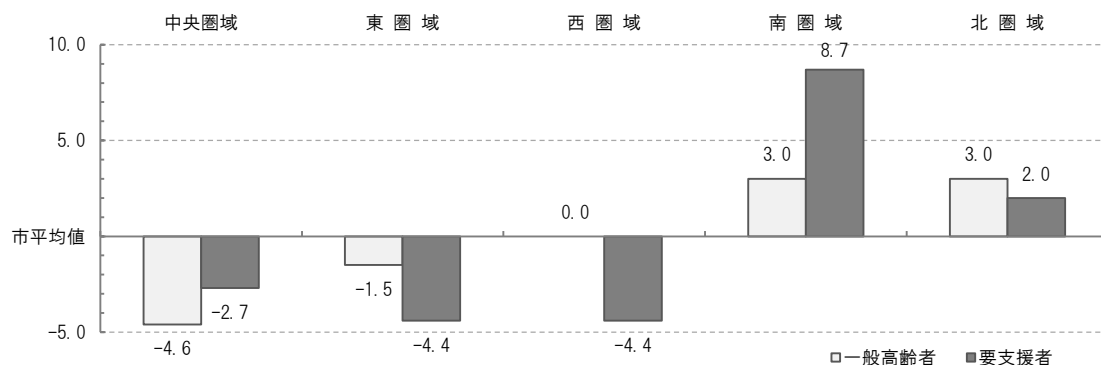
閉じこもり傾向



認知機能の低下

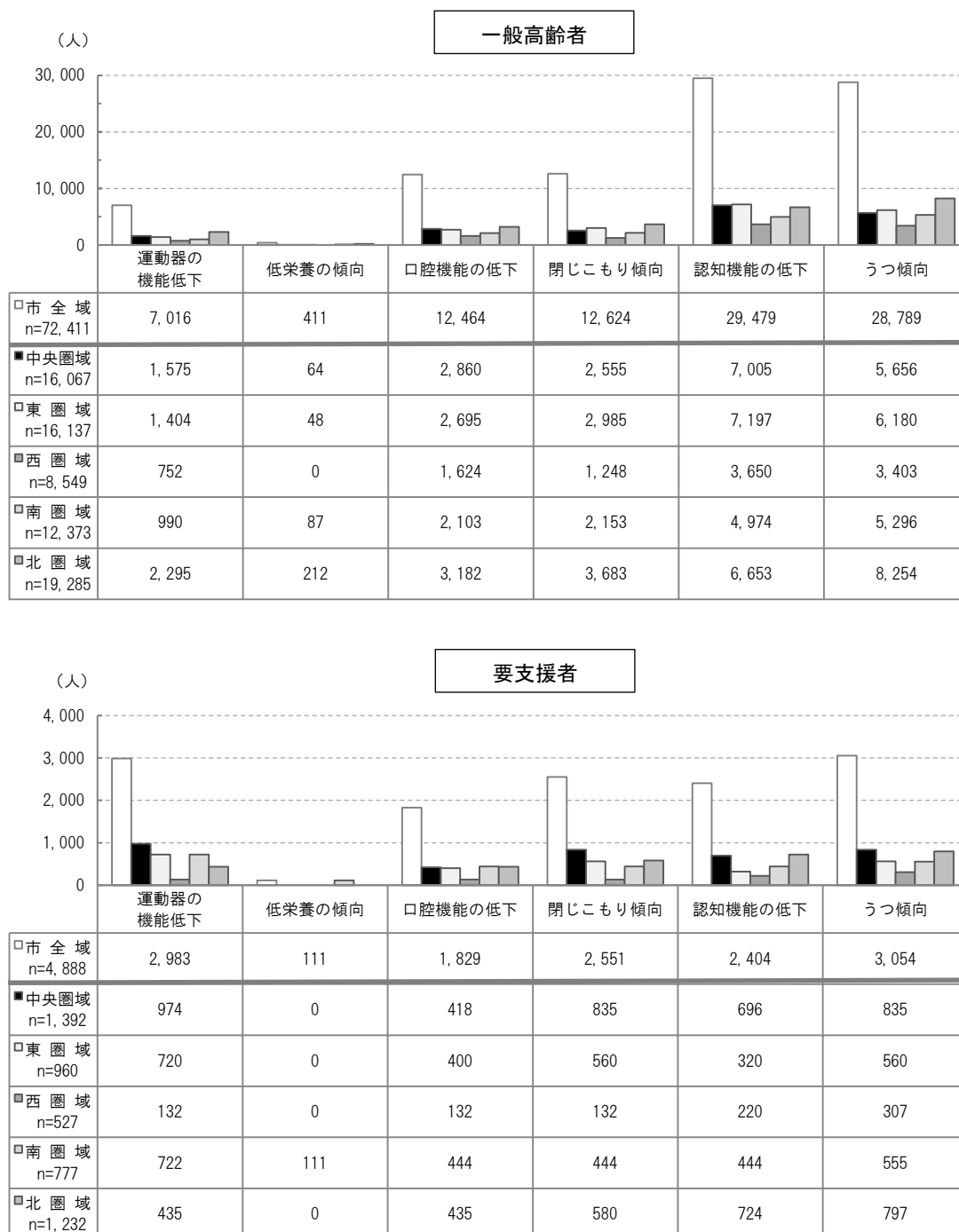


うつ傾向



○各リスク該当高齢者の推計人数をみると、市全域では一般高齢者で認知機能の低下（約2万9千人）、うつ傾向（約2万9千人）の順、要支援者でうつ傾向（約3千人）、運動器の機能低下（約2.9千人）の順に多い見込みです。

図 4.9 各リスクに該当する高齢者数（推計）



(3) 生活支援事業対象者数の予測とニーズ算出

○生活支援事業対象者の出現率の地域差をみると、「中央」「東」圏域では一般高齢者・要支援者ともに市平均値を上回っています。

○圏域別にみると、一般高齢者は「中央」圏域で高く、「西」圏域で低くなっており、出現率の地域差（40.5～31.8%）は最大8.7ポイントとなっています。

○一方、要支援者では「東」「西」圏域（各83.3%）と「南」圏域（50.0%）の出現率の差が33.3ポイントと大きくなっています。

図 4.10 生活支援事業対象者出現率

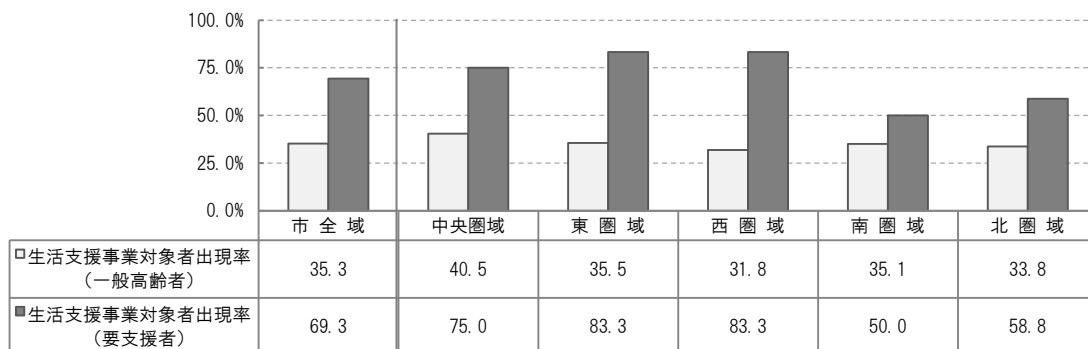
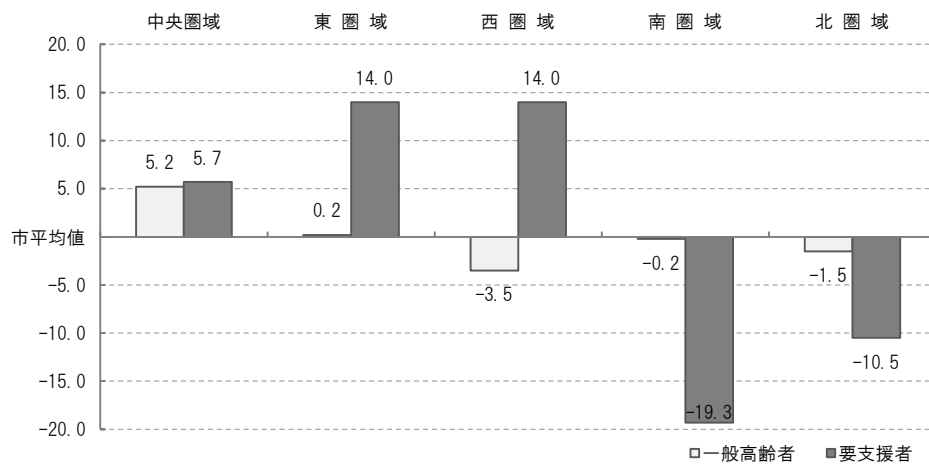


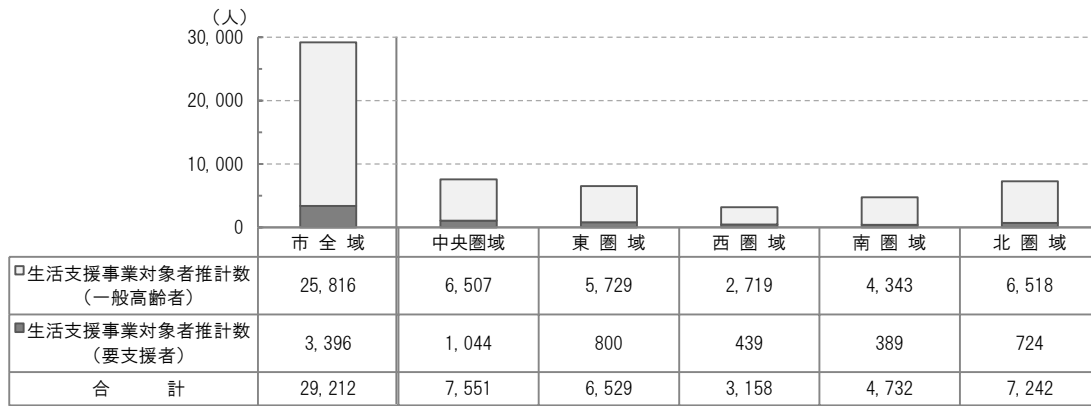
図 4.11 生活支援事業対象者出現率の地域差



○生活支援事業対象者の推計人数をみると、市全域では一般高齢者で約2万6千人、要支援者で約3.4千人になると予測されます。

○圏域別の推計人数をみると、一般高齢者では「北」「中央」「東」圏域の順、要支援者では「中央」「東」「北」圏域の順に多い見込みです。

図 4.12 生活支援事業対象者数（推計）



(4) 生活支援を担う元気高齢者の支援ニーズ算出

- 一般高齢者において元気高齢者の出現率の地域差をみると、「中央」「南」圏域で市平均値を上回り高くなっています。
- 圏域別にみると、各圏域の出現率（4.3～2.6%）の差は1.7^{ポイント}以内となっています。
- 元気高齢者の推計人数をみると、市全域では約2.5千人になると予測され、圏域では「中央」「北」圏域の順に多い見込みです。

図 4.13 元気高齢者出現率

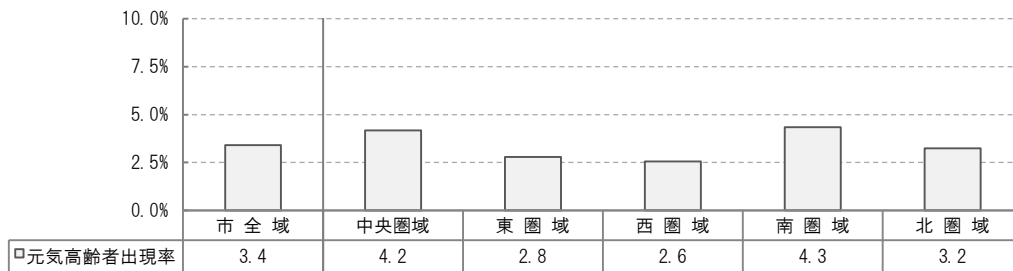


図 4.14 元気高齢者出現率の地域差

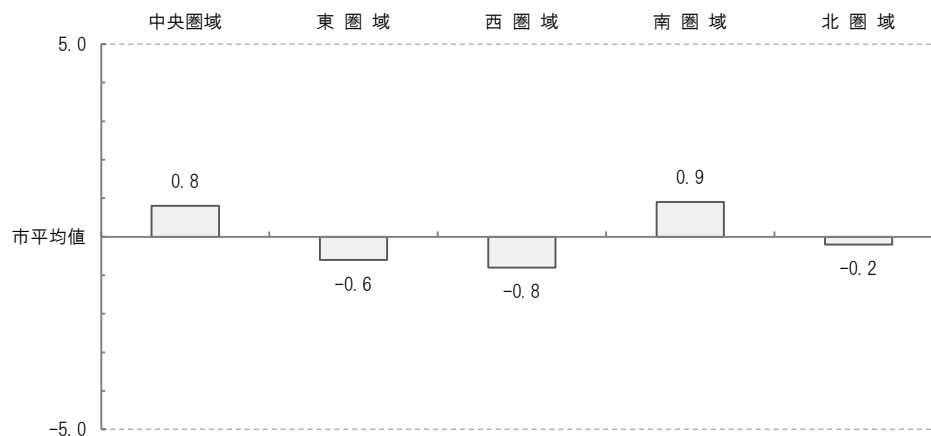
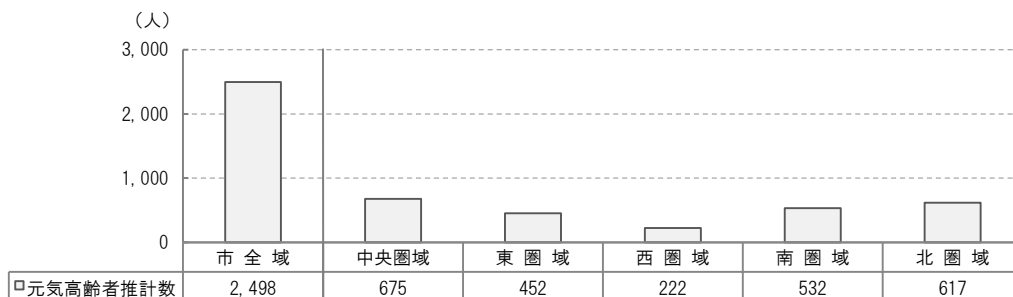
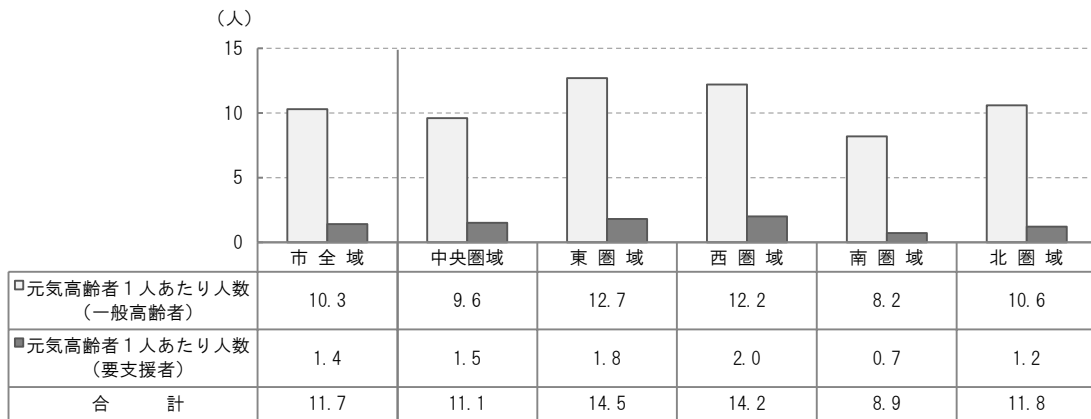


図 4.15 元気高齢者数（推計）



○元気高齢者1人が担う生活支援事業対象者の推計人数をみると、市全域では11.7人になると予測され、「東」圏域（14.5人）が最も多く、「南」圏域（8.9人）が最も少ない状況です。

図 4.16 元気高齢者1人あたり生活支援事業対象者の人数（推計）

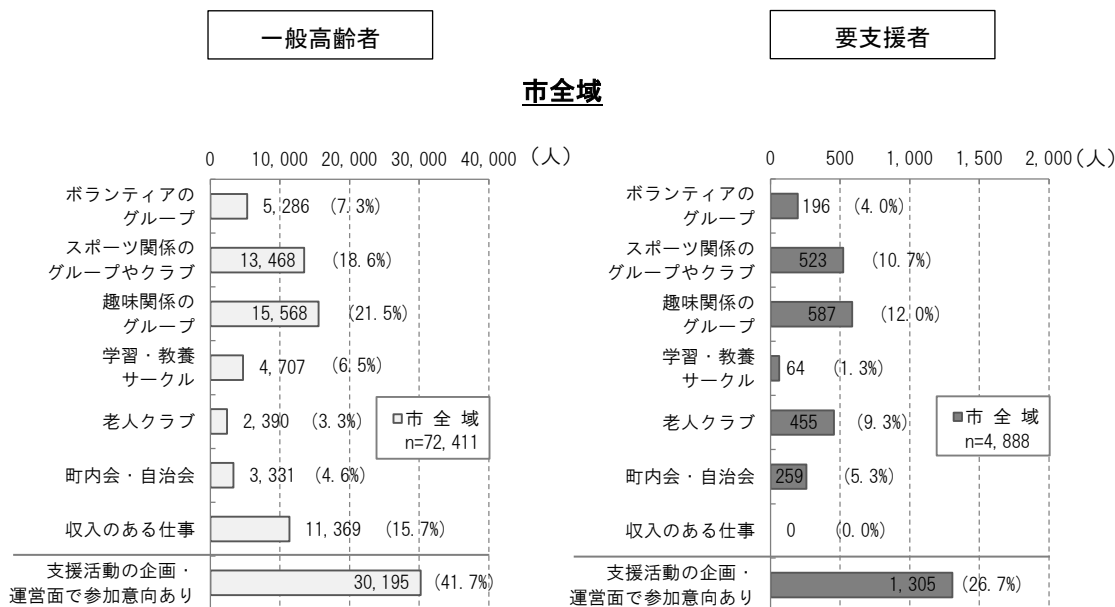


3 地域資源等の把握

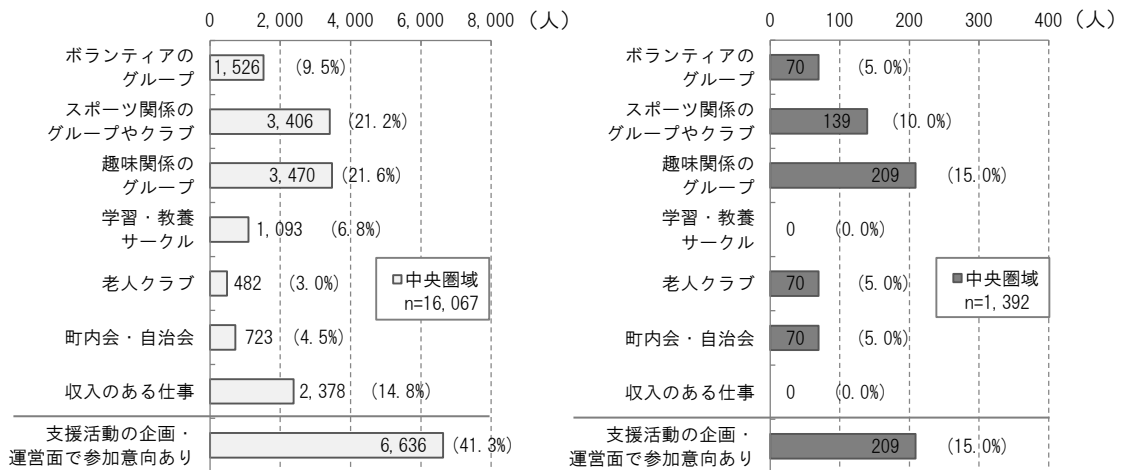
(1) 地域活動への参加状況

- 一般高齢者の地域活動への参加状況をみると、市全域で「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「収入のある仕事」が21.5～15.7%で高く、全ての圏域で「趣味関係のグループ」が市全域と同程度で最も高くなっています。
- 一方、要支援者でも「趣味関係のグループ」(12.0%)や「スポーツ関係のグループやクラブ」(10.7%)が高くなっています。
- 一般高齢者を地区別にみると、「中央」「東」「西」「南」圏域では「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「収入のある仕事」が1～3位となっていますが、「北」圏域では2位と3位が入れ替わっています。
- 一方、要支援者をみると、「中央」「北」圏域では「趣味関係のグループ」、「東」「西」圏域では「スポーツ関係のグループやクラブ」が最も高くなっています。「南」圏域では10%を超える活動がなく全体的に低い参加状況となっています。
- 一般高齢者の支援活動の企画・運営面での参加意向を地区別にみると、「南」「東」圏域が市全域を上回り、「中央」「北」「西」圏域は下回っており、参加割合の地域差(46.0～39.1%)は最大6.9^{ポイント}となっています。

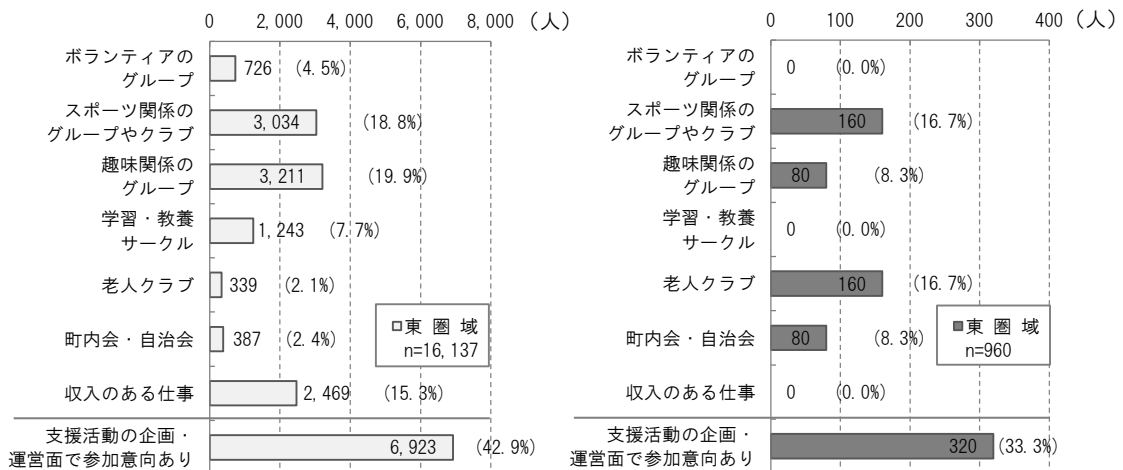
図 4.17 高齢者の活動状況と企画運営支援意向（推計）



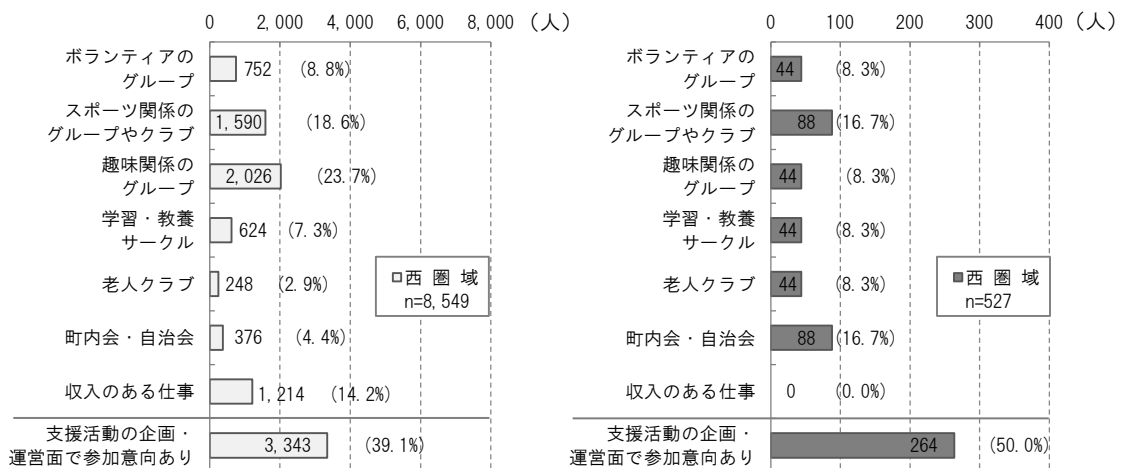
中央圏域



東圏域

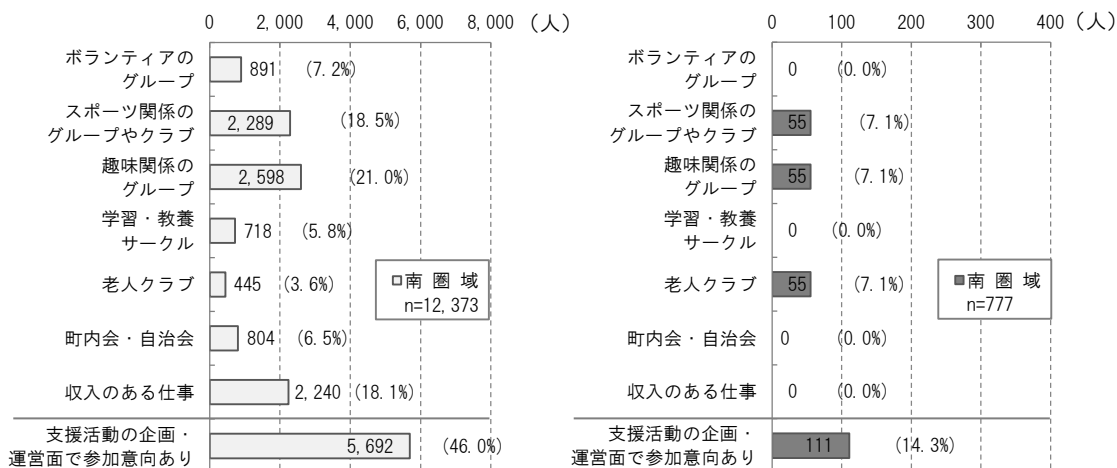


西圏域

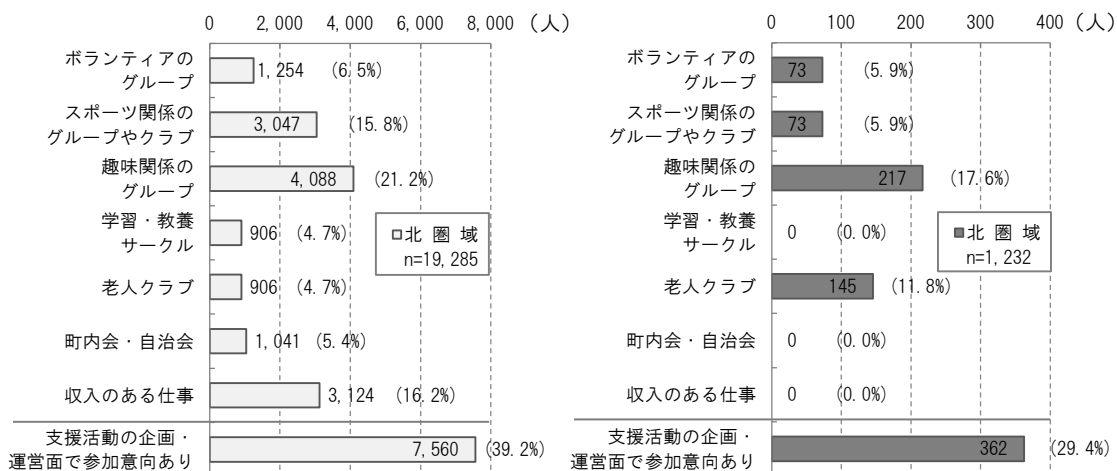


※問5（1）①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤老人クラブ、⑥町内会・自治会、⑦収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5（3）支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」に回答した割合です。

南圏域



北圏域



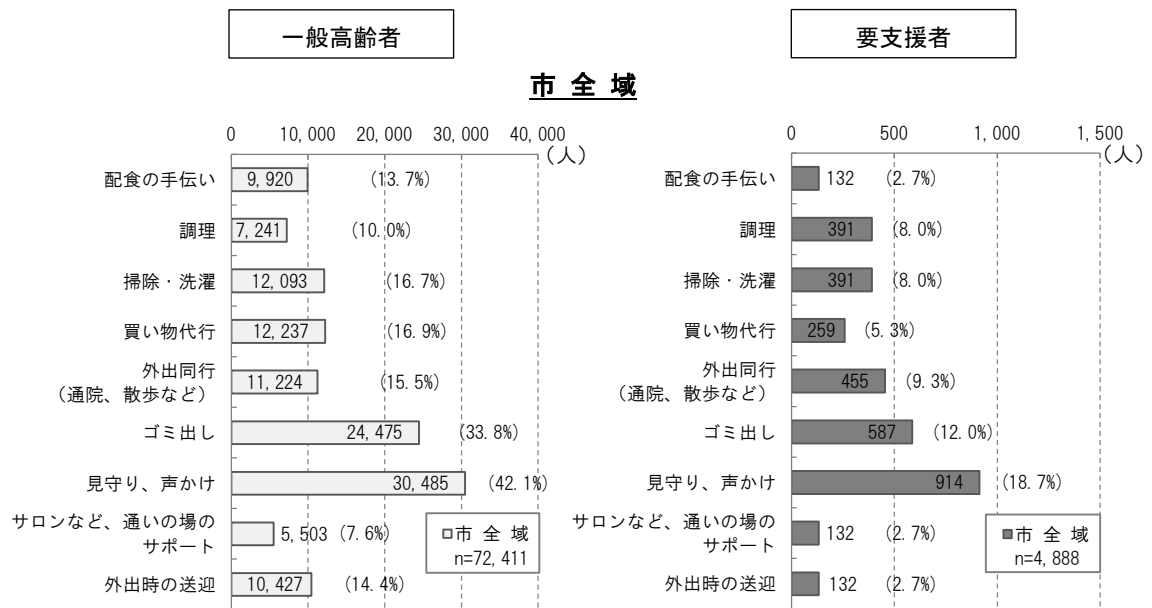
※問5(1) ①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤老人クラブ、⑥町内会・自治会、⑦収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3) 支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」に回答した割合です。

(2) 住んでいる地域で高齢者が支援できるもの（サービス）

○一般高齢者が支援できると回答したサービスをみると、市全域の一般高齢者では「見守り、声かけ」(42.1%)が最も高く、次いで「ゴミ出し」(33.8%)、「買い物代行」(16.9%)、「掃除・洗濯」(16.7%)の順となっています。

○一方、要支援者においても「見守り、声かけ」支援(18.7%)、「ゴミ出し」(12.0%)で地域貢献の意向がみられます。

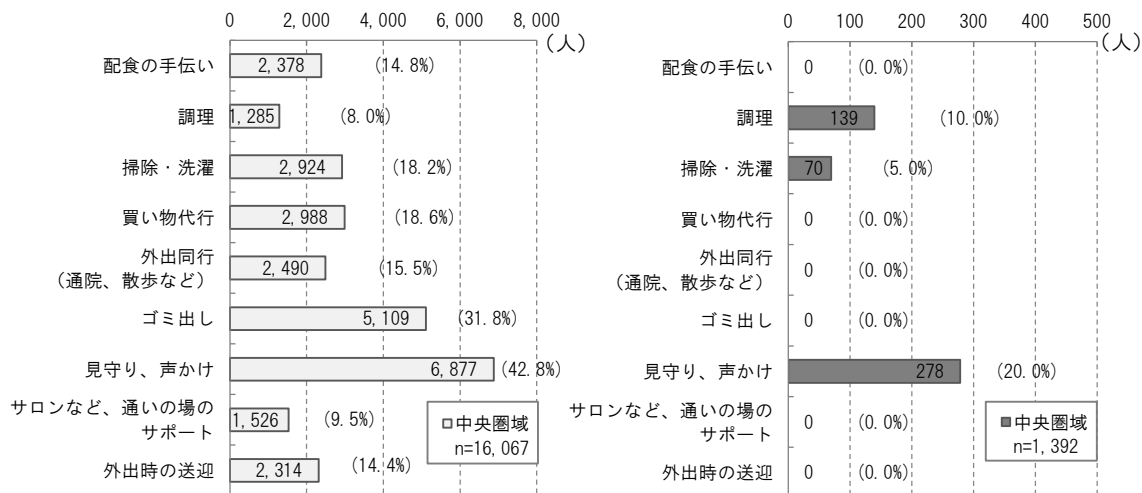
図 4.18 高齢者の地域支援意向（推計）



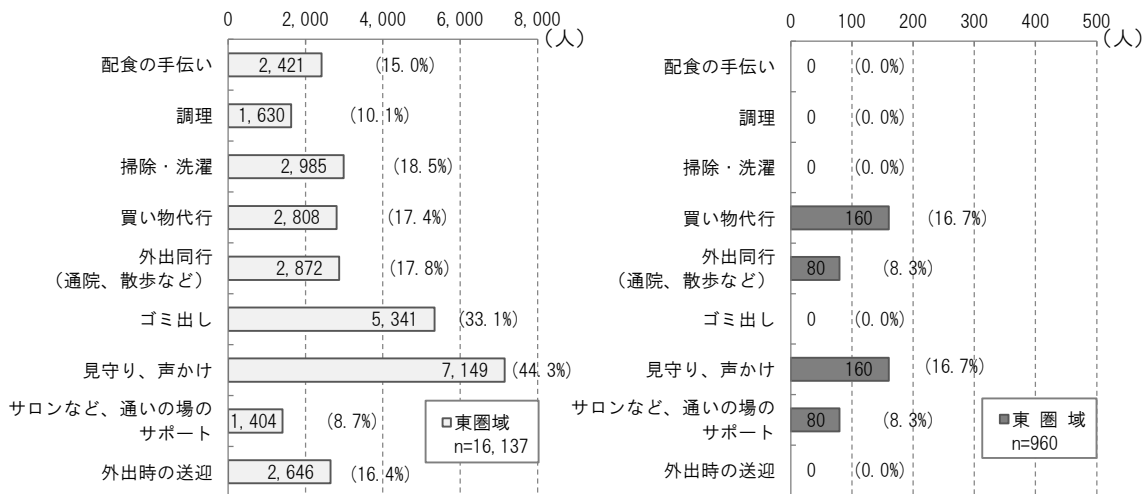
○一般高齢者を圏域別にみると、全ての圏域で「見守り、声掛け」の支援が最も高くなっています。

○市全域で上位5位を占めるサービスについて、これを上回る地区をみると、「南」「東」「中央」圏域では「見守り、声かけ」、「北」「南」圏域では「ゴミ出し」、「南」「中央」「東」圏域では「買い物代行」、「東」「中央」圏域では「掃除・洗濯」が高くなっています。

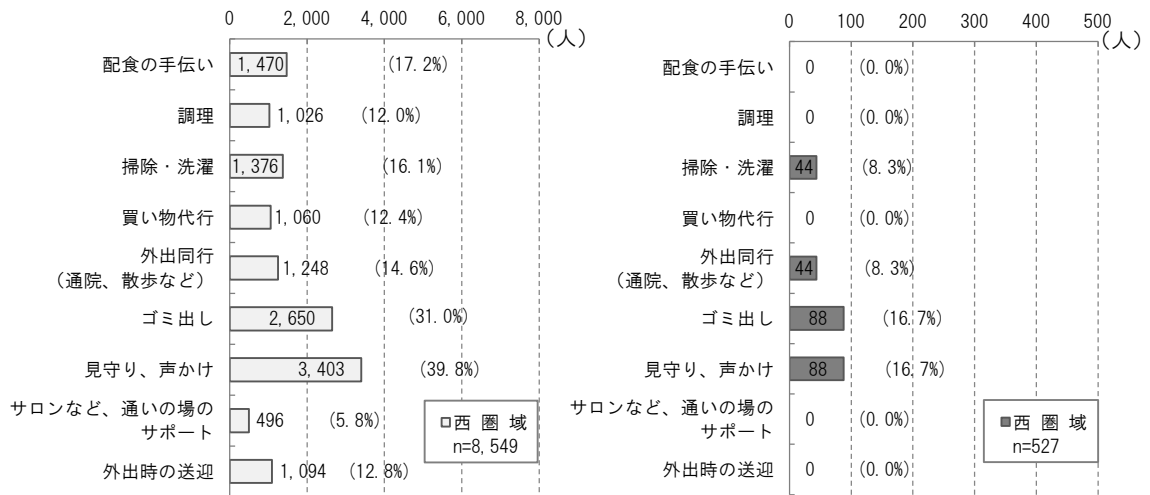
中央圏域



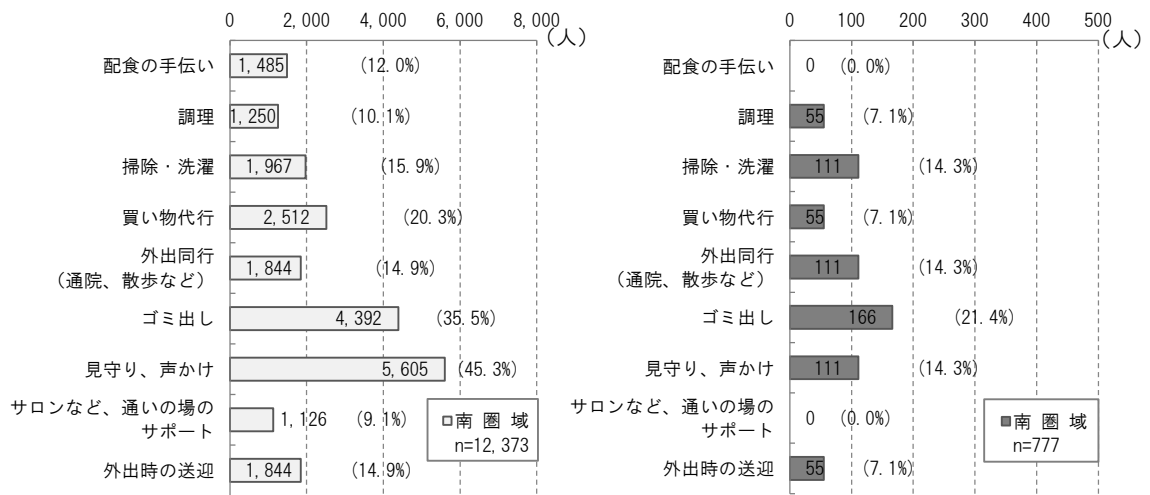
東圏域



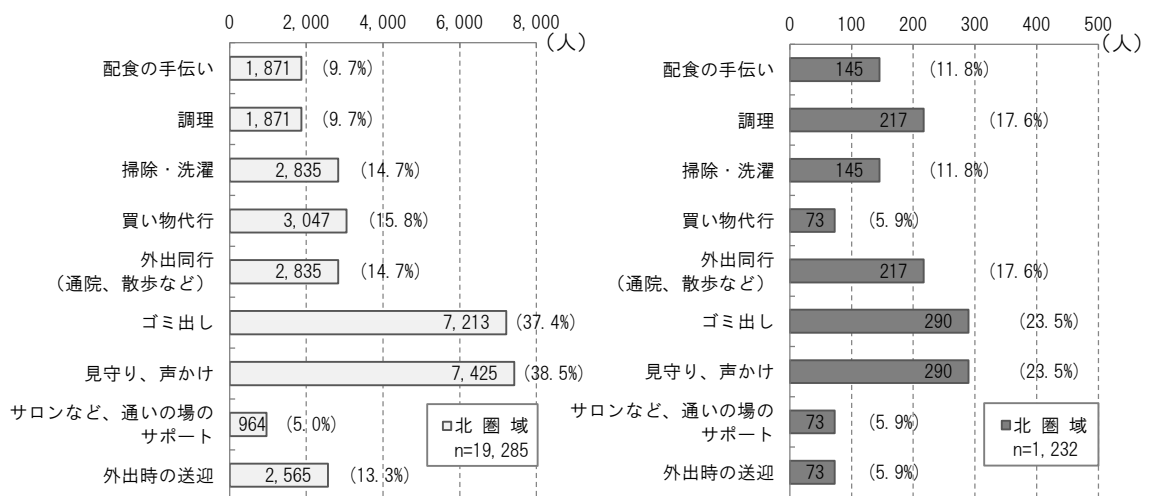
西圏域



南圏域



北圏域



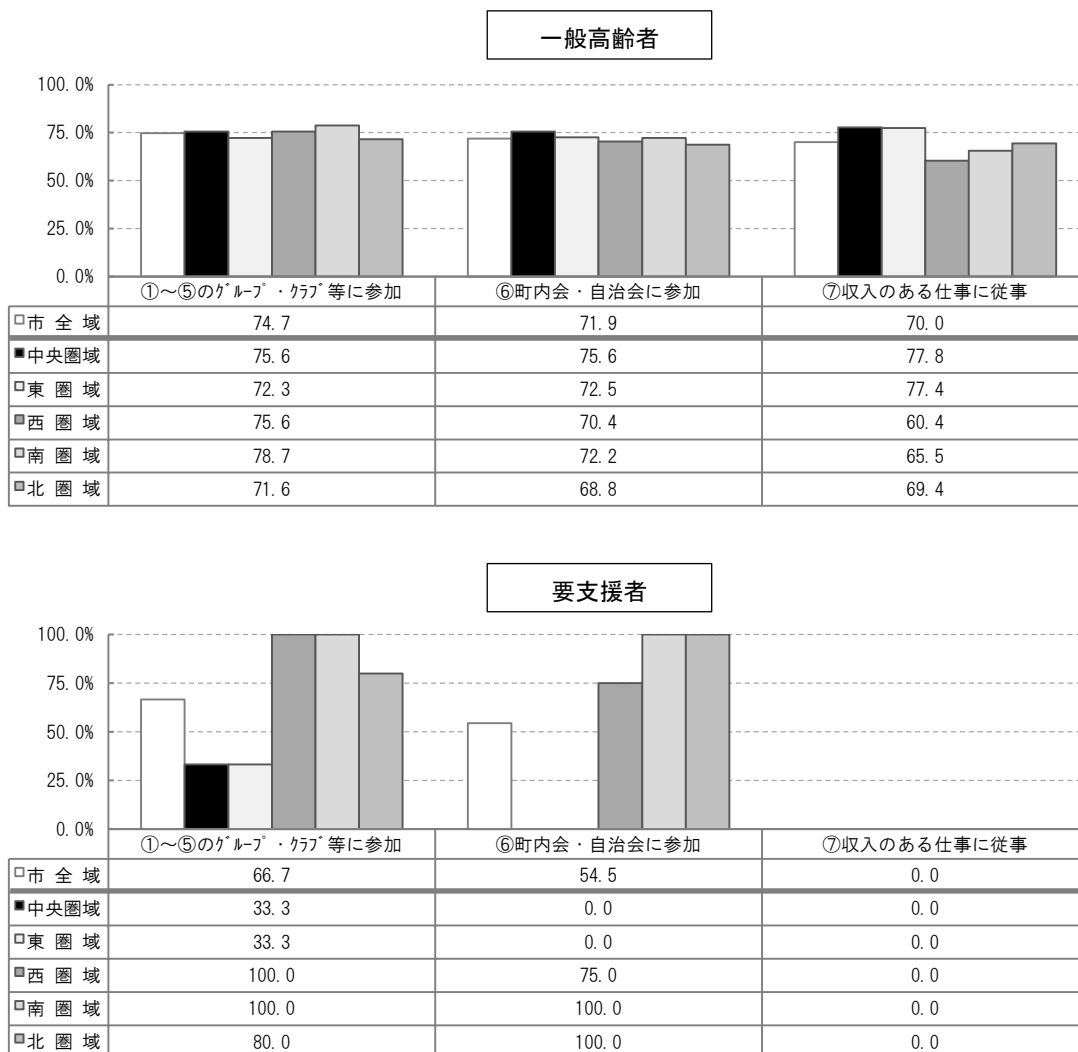
(3) 社会参加と生きがい

○一般高齢者が参加している地域活動の種類別に生きがい感をみると、市全域では「①～⑤のグループ・クラブ等」、「⑥町内会・自治会」、「⑦収入のある仕事」の順に74.7～70.0%の方々が生きがいを感じていると回答しています。

○一方、要支援者でも「①～⑤のグループ・クラブ等」、「⑥町内会・自治会」の順に66.7～54.5%の方々が生きがいを感じていると回答し、順位は市全域と同じですが割合は低くなっています。（「⑦収入のある仕事」の従事者は該当者がいないためコメントを省略）

○一般高齢者を地区別にみると、「南」「中央」「西」圏域では「①～⑤のグループ・クラブ等」で、「中央」「東」「南」圏域では「⑥町内会・自治会」、「中央」「東」圏域では「⑦収入のある仕事」で高くなっています。（要支援者は対象者が少ないためコメントを省略）

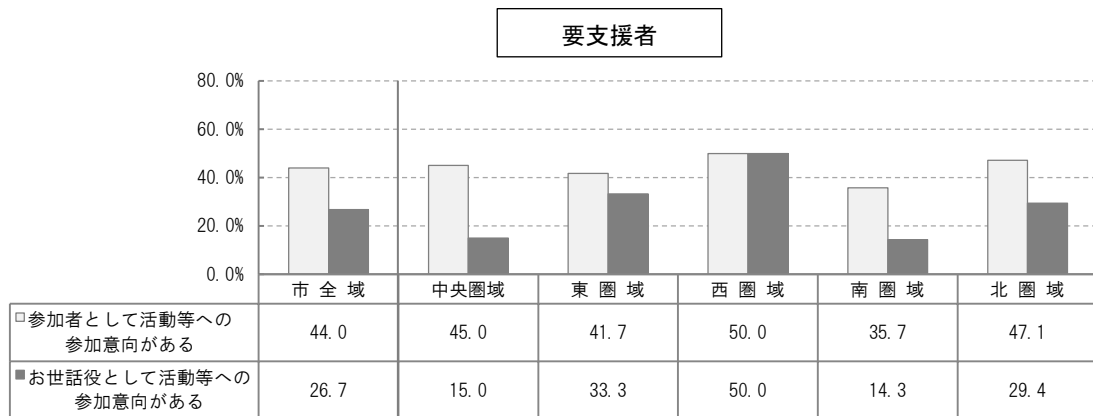
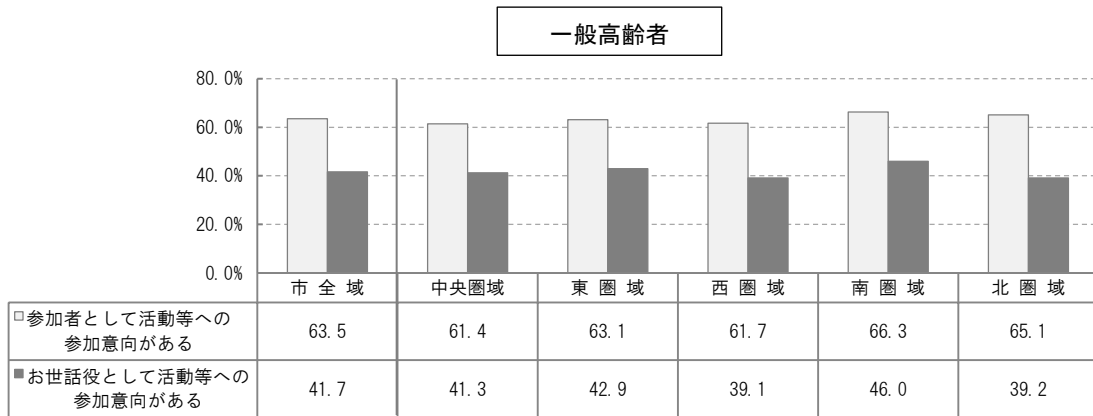
図 4.19 地域活動参加者が生きがいを感じている割合



○一般高齢者の地域活動に対する参加意向をみると、「参加者として活動等への参加意向がある」では市全域（63.5%）と比較し、「南」「北」圏域（66.3・65.1%）で割合が高くなっています。

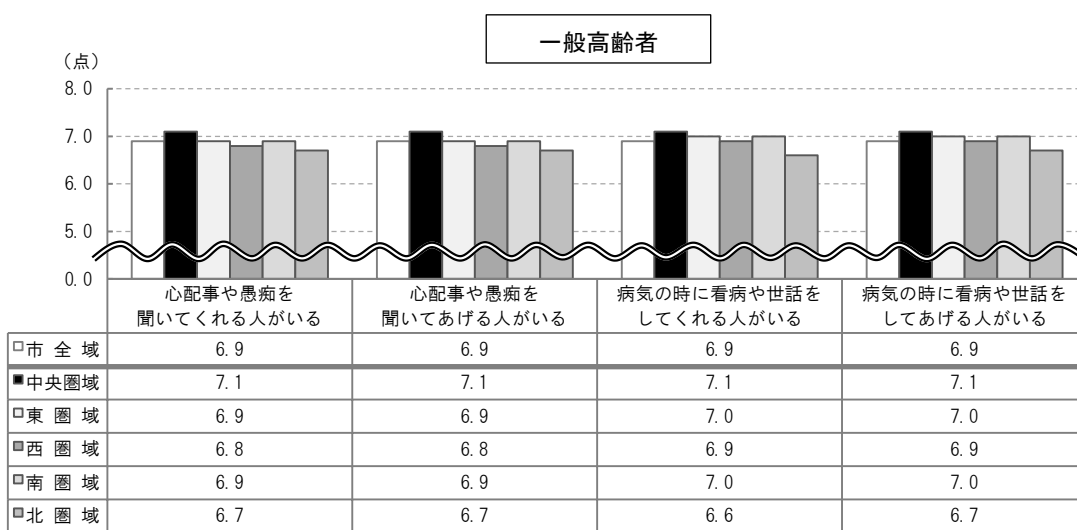
○また、「お世話役として活動等への参加意向がある」では市全域（41.7%）と比較し、「南」「東」圏域（46.0・42.9%）で高くなっています。

図 4.20 地域づくりに対する参加意向

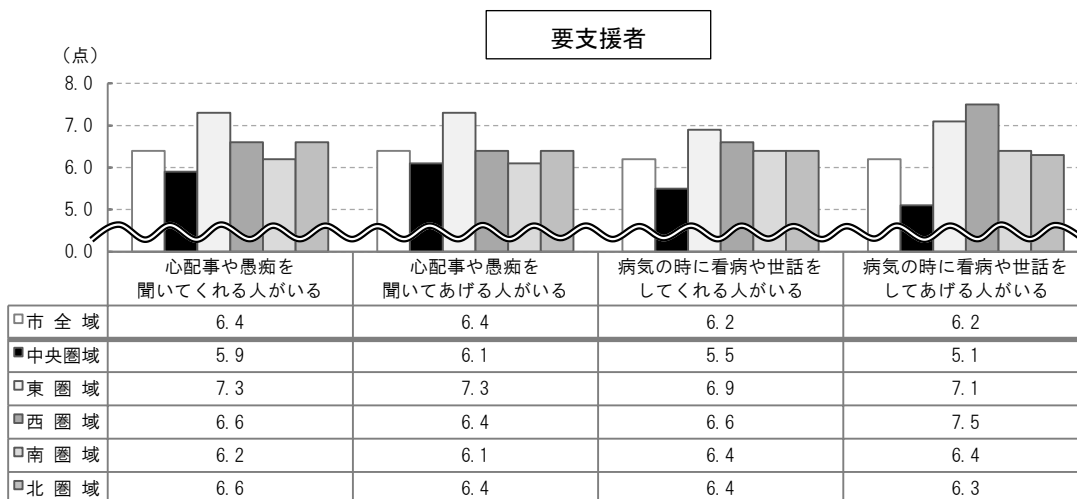


- 一般高齢者のたすけあいの状況別に平均幸福度をみると、市全域では「心配事や愚痴を聞いてくれる人／あげる人がいる」「病気の時に看病や世話をしてくれる人／あげる人がいる」が^{平均}点数6.9点、一方で要支援者でも^{平均}点数6.2～6.4点となっています。
- 一般高齢者を圏域別にみると、「中央」圏域では「心配事や愚痴を聞いてくれる人／あげる人がいる」で、「中央」「東」「南」圏域では「病気の時に看病や世話をしてくれる人／あげる人がいる」で高くなっています。
- 一方、要支援者をみると、「東」「西」「北」圏域では「心配事や愚痴を聞いてくれる人／あげる人がいる」で、「病気の時に看病や世話をしてくれる人／あげる人がいる」は「中央」圏域を除いた全ての圏域で高くなっています。

図 4.21 たすけあい状況における平均幸福度（点数）



(注) 上記の数値は平均点数です。



(注) 上記の数値は平均点数です。

(4) 高齢者の公共交通機関の利用状況

○外出する際の公共交通機関の利用率の地域差をみると、市全域では一般高齢者で35.8%、要支援者で34.7%となっています。

○圏域別にみると、では市全域に比べ「西」「中央」圏域で高く、利用率の地域差（47.4～28.6%）は最大18.8ポイントと大きくなっています。

○一方、要支援者では「西」「北」「中央」圏域で高く、「南」圏域で低くなっており、利用率の地域差（75.0～7.1%）は最大67.9ポイントと一般高齢者に比べ約3.5倍と大きくなっています。

○公共交通利用者数の推計人数をみると、市全域では一般高齢者で約2万5千人、要支援者で約2千人になると予測されます。

図 4.22 高齢者の公共交通利用率

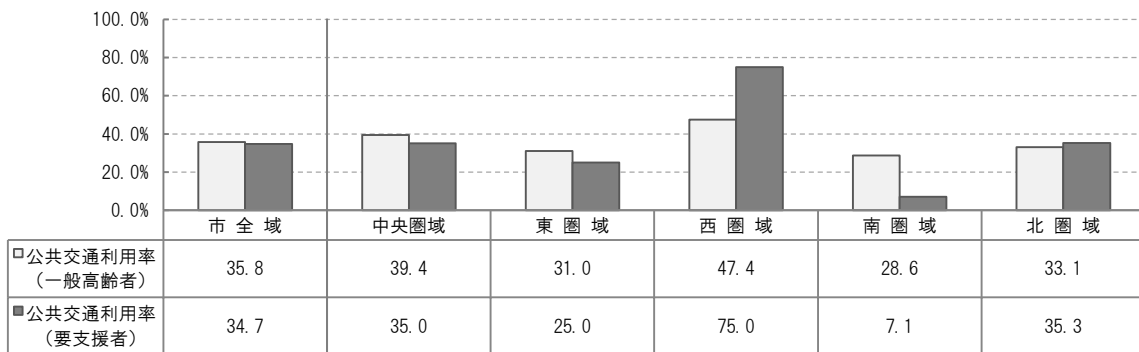


図 4.23 高齢者の公共交通利用率の地域差

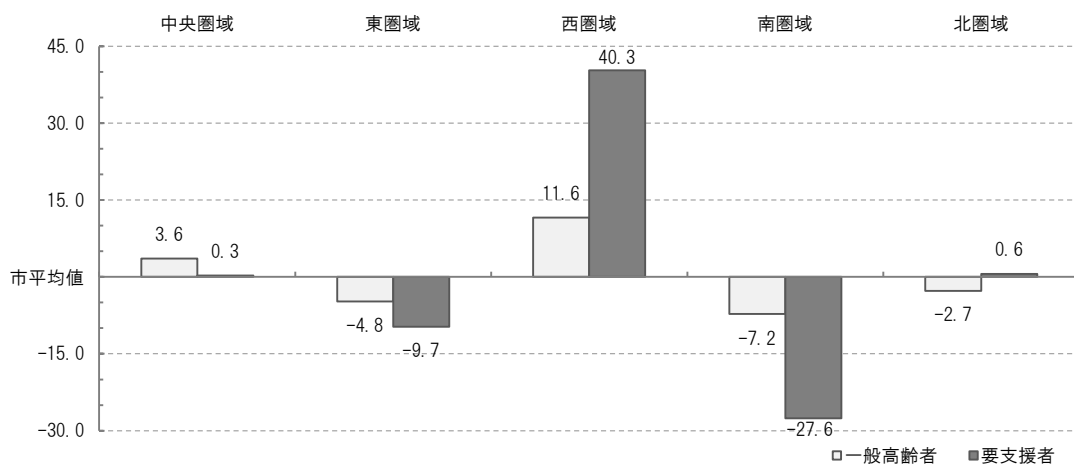
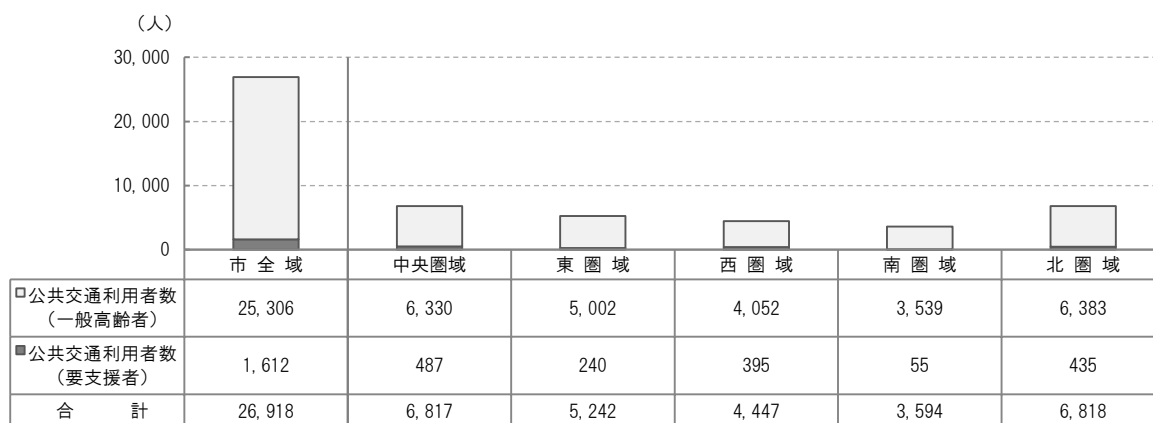


図 4.24 高齢者の公共交通利用者数（推計）



4 健康について

(1) 高齢者の健康感や幸福感

① 一般高齢者の主観的健康感

○一般高齢者の主観的健康感をみると、市全域では「まあよい」(70.9%)が最も高く、次いで「あまりよくない」(15.1%)、「とてもよい」(9.1%)の順となり、圏域別でも同様の状況となっています。

○また、主観的健康感で「あまりよくない」と「よくない」の合計を圏域別にみると、「西」「北」「東」圏域(+2.0~+1.1ポイント)で高く、「中央」「南」圏域(-3.4・-1.1ポイント)で低くなっています。

図 4.25 主観的健康感

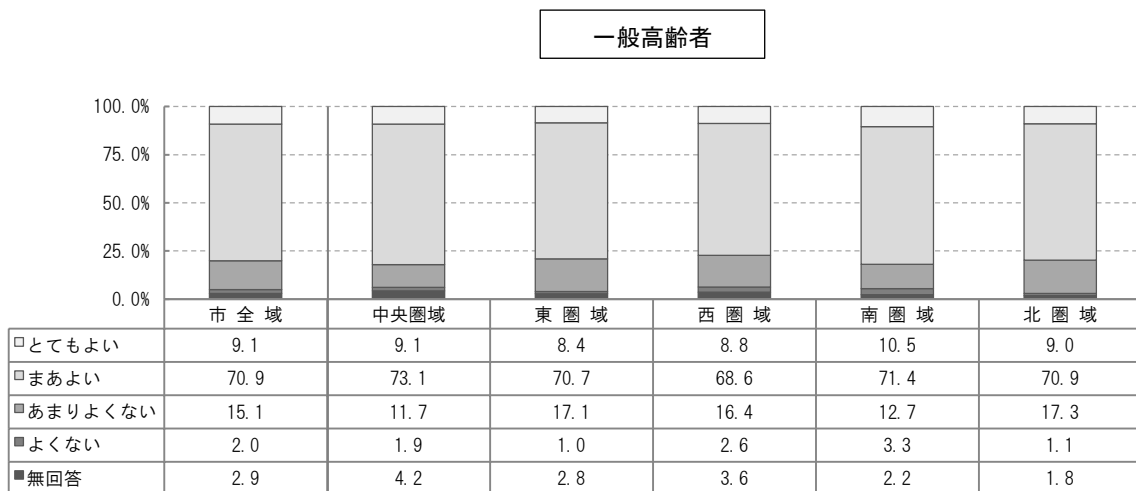
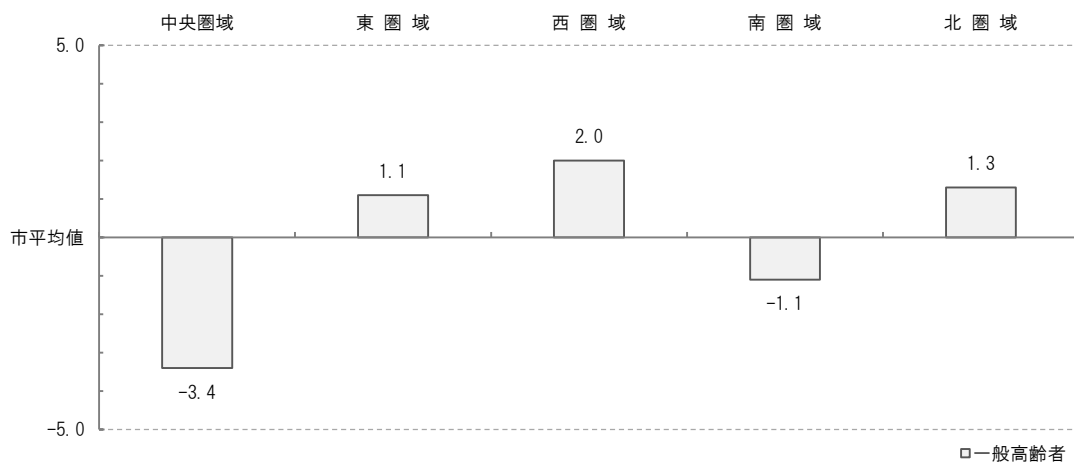


図 4.26 主観的健康感（「あまりよくない」 + 「よくない」）の地域差



② 主観的幸福感

○主観的幸福感の平均点数をみると、市全域では一般高齢者で6.8点、要支援者で6.2点となっています。

○圏域別でみると、一般高齢者では7.0～6.6点となり、「中央」圏域が最も高く、「北」圏域が最も低くなっています。

○一方、要支援者では6.9～5.6点となり、「東」圏域が最も高く、「中央」圏域が最も低くなり、一般高齢者の方が高い点数となっています。

図 4.27 主観的幸福感（平均点数）

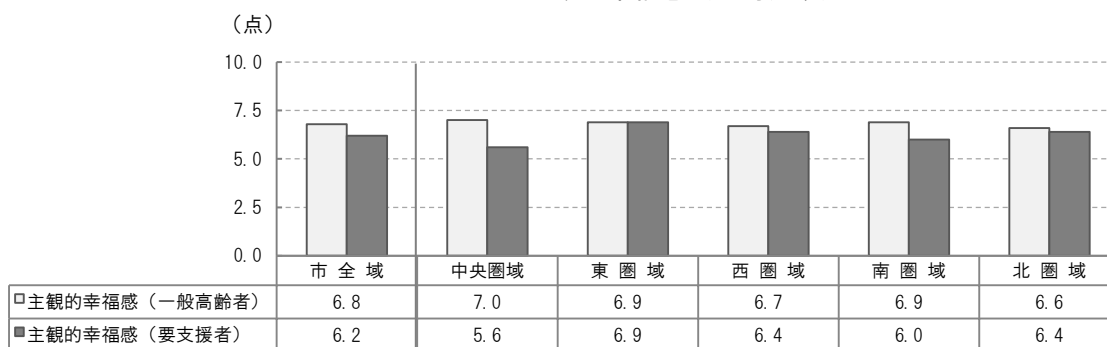
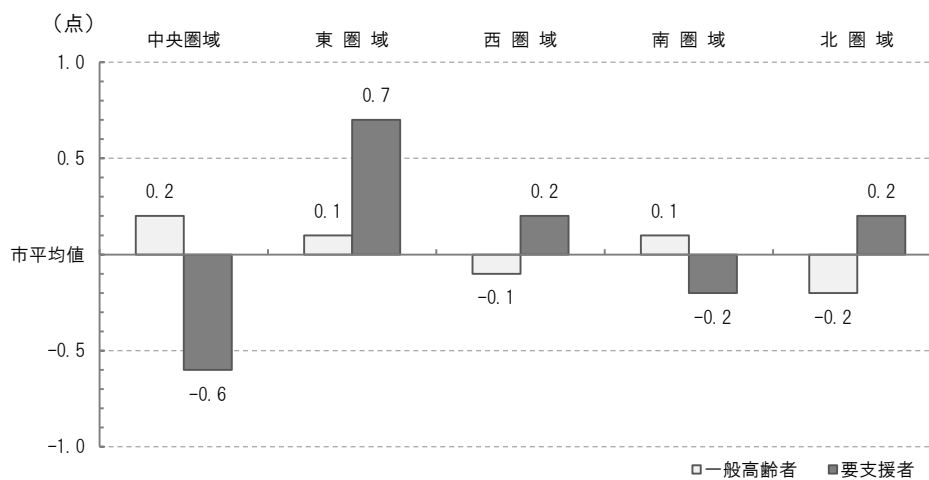


図 4.28 主観的幸福感の地域差



(2) 誰かとともに食事をする頻度

○一般高齢者が誰かとともに食事をする頻度をみると、市全域では「毎日ある」(52.5%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(17.6%)、「年に何度かある」(13.2%)の順となり、圏域別でも同様の状況となっています。

○一方、「ほとんどない」では市全域は6.7%、圏域別は8.7~5.3%と3.4^{ポイント}差があり、「南」「東」「西」「北」「中央」圏域の順となっています。

○同様に、要支援者をみると、市全域では「毎日ある」(30.7%)が最も高く、次いで「年に何度かある」「ほとんどない」(各18.7%)、「月に何度かある」(16.0%)の順となり、圏域別では順位が異なります。

○一方、「ほとんどない」では市全域は18.7%、圏域別は29.4~7.1%と22.3^{ポイント}差があり、「北」「東・西」「中央」「南」圏域の順となっています。

図 4.29 誰かとともに食事をする頻度

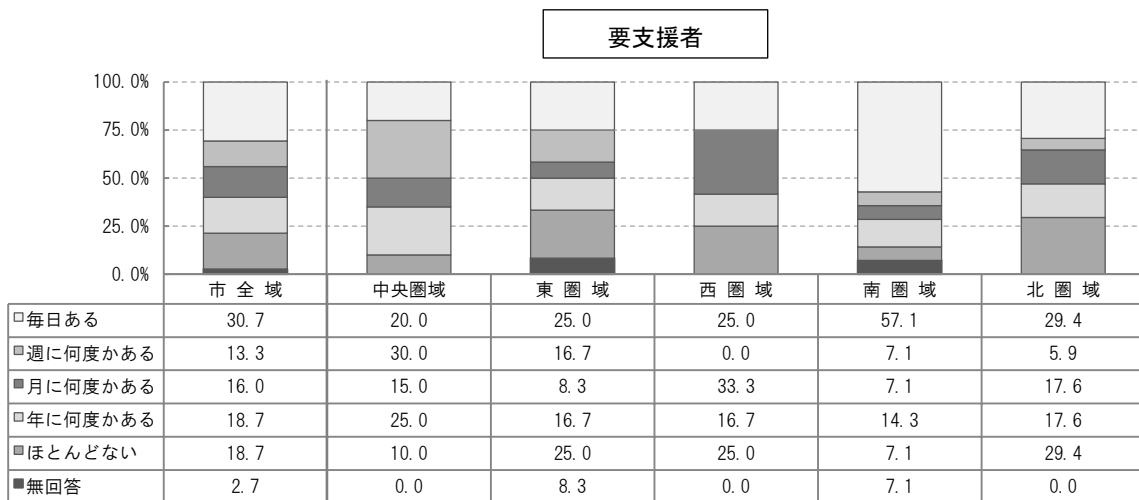
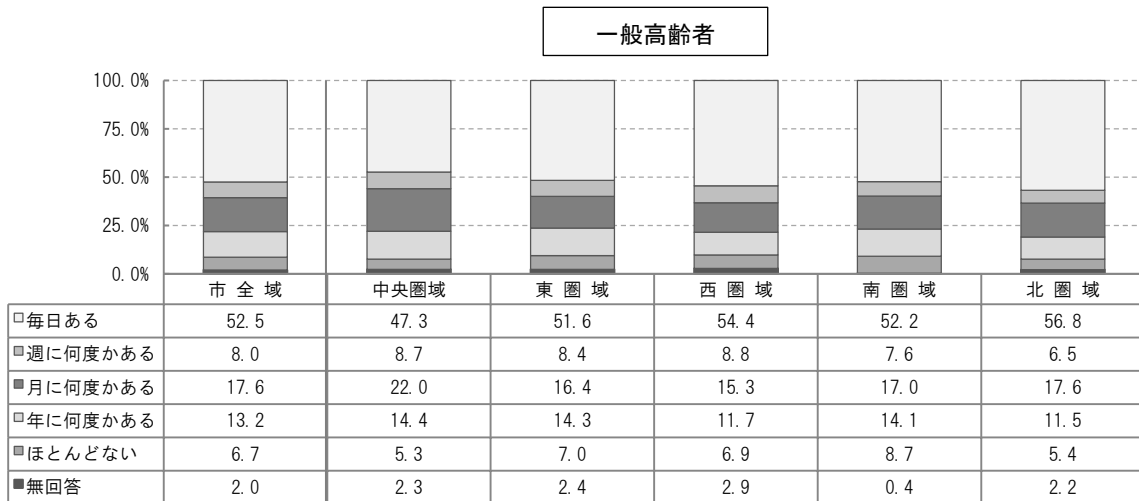


図 4.30 誰かとともに食事をする頻度の地域差

